

段と好騎乗を示したが、反抗の際タイムが長くかかり、タイム失権し減点74。十番農大のフアイト上杉君、フアイトで後段を圧倒第三障まで通過したが第四、第五で各二拒否されて失権減点50、十一番本学堤君は、核融号で好騎乗、第十障飛越後タイム失権したがそれまで一逃避、三反抗のみで全く味事であった。減点93、十一番農大主将森本君は、難馬核月号で第一、第二障を軽く通過、このあたり、両校選手は真剣そのもの、この後、森本君が、障りにつけるだけで、飛越しなくても農大の勝ちとなるからである。然し、次の右回転で、反抗され、その後、拒否、反抗拒否第四障も二拒否され失権減点20。こうして本校はわずか7点の差を以って、勝利を握つたが、堤君一人の力で勝つたようなもので、全体として、農大側に実力有りとみられても仕方のない試合であった。

第三戦 対農工大学

優勝を決する一感として、阿軍フアイトを持つてぶつかり合った。  
 一番農工大岡崎君は常霜号に騎乗、第十一障障で、二拒否失権し減点62、二番本学岡君、昭南号で、第八障障迄順調に飛越したが、第九を二拒否第十一を一拒否

飛越したが、二反抗、五逃避、拒否があつて減点46、五番農工大中矢君は、核月号で、第一を通過したが、第二・三で各二拒否されて失権その四二反抗があつて減点24、六番本学細内君核融号で第一、二障障を飛越第三を二拒否されたが、第四・五障障を通過第六障障で二拒否されて失権し減点170。然しよく乗った。  
 七番農工大岡田君は、昭南号で快調に飛越減点を思わせたが、最終障障で、二拒否一反抗を食つて減点14、然し、本学岡君を、40点食つた。八番本学向君は、常霜号に騎乗スタート前危なかつたが、よく立て直し第一・二を、軽く通過第三を逃避されたが後は第十迄無事通過、第十一を一拒否されたが、通過最終障障で二拒否されたが、ゴールへ逃げ込んで減点27、で、の食い。九番農工大向井君は、全く味事な騎乗で第三を一拒否されただけでゴールし、減点4で、45、の食い。十番本学堤君は、核融号で第六まで二反抗第三を一拒否されたが、ここで飛んだ女性の声愛に発奮、第八・九・十と難なく通過、第十一・十二を一鹿づつ右へ逃避されたが、よく飛ばせてゴール、減点28で173点の食いは天晴れ！ 十一番農工大主将吉田君、健闘よく核融号で、第七迄飛越したが、第八・九障障を各二拒否されて、失権減点137で、33点の食い。最後の騎乗者平中君は核月号に騎乗するも一つも飛越できず、一反

さらに最終第十二障障を二拒否されて失権し減点54、三番農工大勝山君は核融号で、第七障障飛越後タイム失権、その間反抗が突に10もあつて、減点201、四番本学岩崎君勝融号によく騎乗し第十一障障を除いて全部

農工大 ○本学

-658 対 -58025

| 減点  | 馬名 | 名  | 減点      |
|-----|----|----|---------|
| 62  | 岡崎 | 常霜 | 高倉 2775 |
| 14  | 岡田 | 昭南 | 岡 54    |
| 201 | 勝山 | 核融 | 堤 28    |
| 4   | 向井 | 勝融 | 岩崎 465  |
| 240 | 中矢 | 核融 | 月平 254  |
| 137 | 吉田 | 核融 | 細内 170  |

抗を加えて、二拒否失権し、減点254、で14点の食われ。結局本学は二食い、四食われながら、70の差を以つて、勝ち二運了した。その他の成績

|      |       |     |      |
|------|-------|-----|------|
| 農大   | 655   | 農工大 | 699  |
| 4065 | 86675 | 農工大 | 755  |
| 551  | 日大    | 武居  | 日本大学 |

最優秀選手 堤君 (青山学院大学)  
 優秀選手 (各校一名) 森本 (東京農工大学) 岡田 (東京農工大学)

三戦全勝ではあるが、完勝したのは日大戦だけで、他は全く危なく決して、優勝の美酒に心から酔える勝ち方ではない。なお一そらの精進が望まれる所である。

第三回對國西學院大學定期戦  
四月十九日(火)  
於日大馬場 馬場 良 天候 晴

本学-532 関学-460  
差 72点をもつて関学の勝ち

| 減点  | 関学 | 馬名 | 本学 | 減点  |
|-----|----|----|----|-----|
| 180 | 広瀬 | 青影 | 阿崎 | 170 |
| 12  | 星野 | 青葉 | 岩崎 | 80  |
| 15  | 松崎 | 昭南 | 河内 | 54  |
| 142 | 島田 | 勝雄 | 平中 | 204 |
| 0   | 長久 | 板野 | 高倉 | 3   |
| 113 | 高橋 | 板野 | 堤  | 51  |

(評)

過去二週戦の姿目を見ている情敵関学を今度こそ奮起せんものと、フアイトに燃えていた。しかし馬匹はよくもこれだけ馬が揃ったものだと思われはどで早くも乱戦が予想された。  
幾々の試合は星の小休止後開始された。  
青影村に騎乗の関学の主将広瀬は同号に金満なところなく、闘着のよいとなる。  
岩崎君も得意の青葉でドラマと三段を飛ばし切れず二失。昭南村に騎乗の河内君は油断のせいか門扉に於いて打昏されたのはいかんである。平中主将は勝福にならなすところなく三敗。わずかに高倉君が猛烈に騎乗し一帯でゴール又堤君が旗印を見事にのりこなし、ゴール、旗のフアイトと技倆をまざまざと見せてくれた。

試合後5時より大学地下食堂にて食事を共にしながらなごやかな交歓のひとときをすごし遠征の際の再会を約して閉会となつた。

(飯田)

青波と共に

第三回 合 彩

青波、両親が分らず、お世辞にも、血統がいいとは云えない。然し心から親しんだ時の、彼女の可愛さ、澄んだ賢しそな眼、学院のマークをくずしたような、白のマークを額に持ち、タテガミのフサフサとした小柄な馬、フアイトにあふれ、障壁を見れば、ブツとんで行くその心意気、情憚な顔、力あふれる四肢、いかなる名馬といえども、描き得ぬその美しさ。  
彼女と初めて会つたのは、三十三年四月十二日の午後四時頃だつたと記憶する。その時可愛いい馬だなとは思つたが、やはりこわかつた。翌朝乗せられたのが、この青波であり、こうして、彼女との交際が始まつた。当時の彼女は、今よりもつとのおつかない馬で、何度噛みつかれたか分からない位、然し、辛い事事に、強烈な後肢の一撃だけは、くらつていない。あの二、三段廻りも、今は隣をひそめたが、何か寂しい気がする。五月末にあつた新入生強化練習の第一日目に(雨が降

り)強制的に彼女の後に立たされ、シツガを持ち上げ、お尻をふかされた時のこわさ。馬房の中のことと逃げける余裕はないし、主将の立村さんが、手を取つて、歌えてくれるのだが、どうにもこわくて仕方がなかつた。ここで後立つたのが、つまりは男の意地である。この時彼女が何もせずおとなしなかつたことから、少しづつ彼女を信用するようになった。  
こうして彼女との交際は、深まつていった。  
その年の八月十九日から一週間強化練習があつた。この練習時に最後の三日間は、どうしても忘れられない思い出である。  
後半の三日間は台風が来たりして、すごい悪天候をついて行われた。そして三日間連続青波に乗せられた。その頃は、張問先輩が青波を得意としておられ、連日騒鳴りつけられた。誰が乗つてもよく障壁を飛越えるのに、僕が乗ると飛ばないのである。そして次々怒鳴られた後下ろされ、張問さんが乗り、拍車なしで飛ばせ、僕が乗り拒否され、逃避されて、連日「馬鹿野郎馬鹿野郎」であつた。とにかく青波に乗ると、顔色が変るときで云われた程彼女がイヤだつた。自分でも情無く、こらえてもこらえきれず出てくる涙を顔の上に付けて雨に洗わせて、ごまかした。そして最終日その日も「馬鹿野郎！」である。「こんなに良く飛ぶのに、何でお前だけが、飛べないんだ」「下手糞！」

これには腹が立たた。張聞さんは三年目、僕は三ヶ月目だと思つと、下りて張聞さんを、ひっぱたこうかと思つた。もつとも、飛び下りただけだったが。そして最後に云われた言葉が「アヤしうかつたら練習して、青波を乗りこなしてみろ、今度の練習でイオにならず、むしろフアイトをもやして練習することを期待する」である。「よろしう今に見ろ、あんなちづこい馬なんかに敗けてたまるか」

それからは、青波青波と連日青波である。同じ馬にはかり乗ることに、とかくの批判はあつたが、なお青波に乗り続けた。こうしている中に、青波は、僕の悪人のような存在になつてきた。僕の片想いだつたかも知れないが、十月のある日、たしか二部が法政二部と試合をした日の事である。青波が痛痛になり、朝から、キ馬を始め、その夜は雨に濡れながら一夜中グラウンドを歩きまわつた。腹に毛布をまき、苦しげな馬と、長靴をはき、カサをさして、トボトボと歩く人、知らない人が見たら何と思つたらう。腹痛のため地面にすわりこむ青波を起こしては歩き、起こしては歩き続けた。この時は、遠藤、白崎阿先強も一緒だつた。雨も上がり、朝が来て、オレンヂ色に輝やく太陽が、顔をのぞかせた時の美しさ婦しさ、痲痛も良くなり、ホッとすると共に、その日一日、授業に出ては寝てた。こんな事もあり、親密感には深まる一方だつた。

十一月頃からどうやら青波に乘れるようになったが、張聞さんからは、「まだまだ」と云われた。この頃から、天狗会を目指して、練習する気になつた。こうして連日青波に乗り、彼女にいろいろと、教えて貰つた。四月十九日天狗会、快晴である。準備運動の時ごく調子が良い「しめたー半分位乗るかな」、今思えば半分欲のない話であるが、これが幸いだつたのかもしいない。スタート前阿部先生からの注意「いいから一つ飛ばしてこい、こんな障馬なら必ず飛ばから」少し上り気味だつたようだが、第一を飛んで、タツと落ち着いた。後は快調に飛んだ。各回転を常足に落す程にしてまわり、ついに満点でゴール。感しかつた。唯、感しかつた、張聞さんから「よくやつたな、お目出とう」と云われた時、感しさは頂点に達した、やつと、青波に乘れた。障馬は低かつたが、そんなことは問題でなかつた。とにかく一年間でどうやらこうやら青波に乘れたのである。これで彼女と対等につきあえる。青波よ、どうもありがとう。お茶でも飲みに行こうか。おごるよ、えつたに、お茶より人參がいい。そうだな、待つてな、今買つてくるから。

### 自馬の現状

青葉号(アラブ六才駒体高一五〇cm、胸圍一七七cm、管圍二〇cm)  
昨年十一月に行われた東京大会中障馬Bで僅か障馬一落下をレールして以来、四大学敵などに活躍し血統の良さから将来を期待されていたが今年の初め固い馬場の故に右後肢に裂傷を起し去る五月五日の都民馬術大会には硬着して一障馬を乗り越せず心配されているが六月の東京大会には是非とも入賞を二期して連日練習に筋んでいる。生来神経質で腹帯をしめるのを嫌いだ知らない水こうなどの障馬にははなはだ弱い。

青波号(アラブ十二才駒体高一四七cm、胸圍一七二cm、管圍一九cm)  
関東の試合には難馬と見做され、いつもこの馬によつて勝敗が決まることが多く、基本馬術が出来ていないと絶対に飛ばない。馬場馬術も一応心得ているし脚の扶助、騎座の使い方など練習にはもつてこいの馬である。たゞ難は小柄故に力がなく

自馬対抗となると非常に不利である。最近一寸、後肢を負傷し休馬を続け少し張り気味であるが部長の看護で序々に回復に向つている。何分老令であることだし将来学院を去るのもそう遠くはない。

青杉号(京平直八才駒体高一五〇cm、胸圍一七七cm、管圍二〇cm)  
元来自馬対抗に出場してもあまり振わぬ馬でいつも多少の飛行状態がつきまといつている。別にどこといつて悪いところは無いのだが飛越能力が衰り、従つて高い障馬になるとあまり飛ばない。馬場用としても飛行らしきものためにその前途は明るくない。

青屋号(六才駒体高一五〇cm、胸圍一七二cm、管圍一九cm)  
阿部先生が倶楽部馬術部に移つて以来、部員の手で調教されてきたが来る六月の東京大会出場のため、近頃では障馬の度合に次第に高さが加わつてきたが何分にも固い馬場故、歩法が定まらず蹄跡に偶角では小走りになり勝つてある。この馬の欠点は心臓が弱いことで少しの運動でさえずり吐息が荒くなる。しかしこれも医師の診断により



部員の手で強くなることは疑いなく。小柄であるがかなり飛越能力はあると見てよい。  
 青光号(重半血七才駒鹿毛、体高一六〇cm、胸面一八三cm、管四十九、五〇、北海道産、特級星珠目上、父呂原ベル種、母野風中半血)現在予つと平木コーチが調教しておられるが、最上馬上りの故か今のところ注意力が散漫で一五〇cm開閉に位置した横木にもつまずいたりしている。しかし一六〇cmの馬格で耐久力も序々につき出し、将来性は多分にあるとみて良い。どうやら我等が待ちに待った馬となりそうである。



協会便り

- 昭和三十五年度協会幹事長に中大四年の大矢晃弘君が決定した。
- 協会では前年度送算繰出のため行なつてきたダンス・パーティーやカレンダーの売出しを廃止し代りに協会費を充来の二階円増しにした。
- 今年度協会の理事会による新委員決定に本学OB中島貞次氏(昭二九卒)が選出された。
- 毎年一回しか行わなかつた関東学生馬術争覇戦は今年から春にオープン戦を行い、秋にトーナメント定期戦の二回となつた。
- 協会では本年度五月以降のスケジニールを左記のごとく発表した。
- 五月十五日オリンピック選手壮行会
- 六月四日五日東京大会
- 六月九日十一月
- 六月十四日関東選手第一次予選
- 六月二十七日 第二次予選

部室あれこれ

○一昨年破傷風のため苦心の甲斐なく死亡した青卒の命日は十一月一日。部室の前の墓標には今でも時たま花がつけられている。心暖かきものよ。どうかずつと読けてね。

○初祭会にしろ、名古屋大学戦にしろとも青学のグラウンドで試合をする。今年はいつも突風吹きすさび...である。一体どうしたつてんでしょね。

○春は三月以来ずつと府中、中山の中央競馬場で四人ずつ交代で男子は場内整理、女子は子供へのサーブのためボニーの荷をしているがたまたまその日の売上げが多ると一金百万円の大金をくれる人が熱つて猫ばをきめこんでいる人はいないでしょうね。

○T子さん、あなたか部室に現われなくなつてからさびしく思うものがあります。もう一度考え直して頂くわけにはまいりませんか。部のためにも学校のためにもそして日本馬生馬術界のためにも。

○いくら欲が多くても女子の試合には自ら箱番を買つてでる人はいない。部だが青学女子は第六回関東女子リーグ戦に他校に先がけてこれを行つた。「これでこそ...」と思うのは数少くあるまいが微運に動いていたよかないね。

○去る四月九日の四大学戦で最優秀選手になつた提君、今回は青学が当番校だけに賞品を買うのも幹事である彼の役目。どうせ自分でもらうのならもつとよいものを頼むんだつたとはやくまいことか。

○これも同じ提君。四大学戦、関学戦と日大の校歌にの彼はいつ、青藤号、岩崎修(前四)金も大食い相手を恐れさせている。子鳩男(前二) 山田芳通(前二)



も、解散時間も知らせず、その点に關しては、誰に聞いても「ノーコメント」これを計画したが、たまたま又さん、Yさんみたいな(失礼)人達であり、馬房の前から二列に並んで、行進するらしい等という噂を聞いた為もあるが、一体どんな所に連れていかれるのか、いさゝか心配だった。「寮の人に、どこへ行くのか、何時頃帰るのかと聞かれても、知らない、わからない、で困ったワ」とは、歓迎される側の一年生女子の話。結局、神宮内苑で行うことになつて、五十名近い部員は、大きな木の下の、芝生の上に腰を下して、去年歓迎会をして貰えなかつた私達二年生のひがみではないが、楽しい、なごやかな一ときを過した。

緑鞆会総会行わる  
恒例の緑鞆会総会は五月二十三

日(月)午後六時より青学校友会館二階のロビーで〇日二十数名をもつて行われた。青木会長挨拶のあと会計の内藤氏より前年度分緑鞆会費の決算及び今年度予算案が提出され審議の後、認められ、事業計画及び監督選出の件が出たが、現役〇日の意見に差があり、緑鞆会幹事一任という事で決定には至らなかった。なお役員改選も次いで行われたが青木会長以下前任内藤長一幹事に代り米谷浩志氏小池信夫氏の両氏が新幹事となつた。

- スケジニール
- 五月二十五日、六月一日 男子関西選征
  - (関学、神戸大、甲南大、名古屋大、名古屋市立大、愛知大、三重大)
  - 六月四日、五日東京大会於パレス
  - 六月七日、八日 関東大学対筑オリーブ戦
  - 六月十四日 関東選手選抜第一次 於馬事公苑
  - 六月二十七日 関東選手選抜第二次 於パレス
  - 七月一、二日 東都九大学リーグ戦 於馬事公苑
  - 七月中旬 夏期合宿予定
  - 七月中、四大学新人戦及び成績定期戦

編(集)後(記)

最初の計画はどこへやら、とうとう雑誌が六月に延びてしまつた。でも考えてみると季節的にも馬術部というものの行事にしてみればこれでいいのかも知れない。今回は原稿も新入生を迎えて大分豊富になり御投稿の諸君には大変感謝している。よりやく六月、十二月の年二回発行と定期的になつてきたし軌道に乗るものと思う。新馬も入りして又夏すぎ、馬匹改良も行われるであろう。先望の御寄稿が沢山になることを祈つて。...

「いななき」二号(非売品)  
昭和三十五年六月七日発行  
発行所 東京都渋谷区緑岡二二  
青山学院大学馬術部  
代 表 者 平 中 三 彦  
編集責任者 岡 良 介  
印刷所 東京都豊島区池袋一ノ五二五  
共 栄 タ 本 社  
電話 (03) 9117